

# THE Messiah 20th

1971・12・22 水 P.M.2:30

愛知文化講堂

●主催 金城学院

●協賛 名古屋学院

●後援 中日新聞社

## ヘンデルの「メサイア」について

世に名曲と呼ばれるものの中で、ヘンデル作曲のこのメサイアこそ真に名曲中の名曲と言えましょう。この曲は聖書を題材にし、旧約聖書の予言にはじまり、新約聖書のキリストの降誕、受難、復活および永遠の光栄に至る記述を、三部六十曲に作曲した膨大な音楽劇です。このような音楽劇を“オラトリオ”（日本語で聖譚曲<sup>せいたんきょく</sup>）と呼び、オペラ（歌劇）のような舞台装置や演技を伴わず、オーケストラ、独唱、合唱と多彩な内容をもって音楽会形式で行なわれるのが特長です。

ジョージ・フレデリック・ヘンデルは、1865年2月13日に、ドイツのサクソニーのハレルに生まれました。幼少の頃から音楽的才能を現わしてオーガニストとしての道を歩きはじめましたが、17才の時法律家になるためハレルの大学に入学しました。処が音楽への情熱は捨て難く作曲に専念するようになり、1703年、当時ドイツオペラの中心地であったハンプルグに移住し、ここで本格的な音楽活動を始めました。彼と同年に生まれたバッハがライプツヒヒを本拠にドイツで活動したのに反し、ヘンデルは1710年イギリスに渡りイギリスで活躍し、1726年ついにイギリスに帰化しました。メサイアの原語が英語で歌われるのもこのためです。

ヘンデルがメサイアの作曲をはじめたのは1741年彼が56才の時です。この不滅の作品が、8月22日から9月14日までの24日間に書き上げられたことは真に驚嘆に値します。この期間彼は殆んど部屋を出ず、いつも食事を自分の処に運ばせました。女中がおぼんを取りに部屋にやってくる時、作曲に夢中になり、食事に手もつけず、感動し、涙を流しているのを女中はしばしば見ました。彼がこのように装麗なコーラスや、私達の心を引き上げるアリア（詠唱）や、又身に沁みるような管弦楽の伴奏を作ることのできたのは、彼が聖書の言葉の真理に深く打たれたからであります。ヘンデルは後に「私がハレルヤコーラスを作曲していた時、それは丁度天の門が私の前に開かれたようであった」と書いています。

1742年8月13日アルランドの主都ダブリンで彼の指揮のもとに慈善音楽会として初演されて熱狂的な感激を呼び、翌年晴れてロンドンでの大公演となりましたが、時のイギリス王ジョージ二世（此の方は今のエリザベス女王の八代前のイギリス王で、かの有名なエリザベス女王のおじいさんに当られる方）が行幸され、ハレルヤの場面では感動の余り立上り、じっとそれが終るまで立ちつづけられました。此の世の王たちも、王の王、主の主、そして永遠に治めたまうメサイアの前に頭を垂れて立たねばならぬという態度でした。以来メサイアが演奏されてハレルヤまでくると聴衆全員総立ちになってここを聴く習慣になっています。

学院のメサイアも今年で20回を迎えます。中高生の合唱を主体とし、学院オーケストラをもって演奏されるこの「メサイア」は外国でもその例がないと激励していただいたこともあります。どうか学院生徒のかなでるメサイアの清純な美しさに接していただき、私達一人一人の心の中にイエスキリストを救い主とあがめる聖なる真心をもってクリスマスを迎えて下さるよう祈ります。

（校条武雄）

1970年度メサイア



1970年12月23日 於：愛知文化講堂

# HANDEL

## the MESSIAH

指揮 M. I・ケリー

合唱 金城学院・名古屋学院

指導 佐藤 初枝  
大賀 利津子

独唱 ソプラノ 後藤 紀子  
アルト 外野 淑子  
テノール 磯野 清  
バス 横田 浩和

管弦楽 金城学院管弦楽団

指導 校条 武雄

オルガン 土岐 恵子

ハンドベルクワイヤー

1971年12月22日〈水〉 愛知文化講堂

主催 金城学院  
協賛 名古屋学院  
後援 中日新聞社

# ~~~~~ プ ロ グ ラ ム Program ~~~~~

1. 序 曲 (シンフォニア) Overture
  
2. ア リ ア (テノール) Recitative-tenor  
やすし、わが民なぐさめあれと、主エホバのたまう、なぐさめもて、民に告げよ、呼ばわりて、告げ知らせよ。……………
  
3. ア リ ア (テノール) Air-tenor  
もろもろの谷は高くあげられ、山々は、低くせられん、まがれるは、ななくせられ、けわしきはたいらかに、ななくせられん。
  
4. 合 唱 Chorus  
主エホバの御栄光は、あらわれいでて、人みな、ともに拝せん。エホバかくのたまえり、人みな、ともに拝せん。こは、主のみことばなり。人みな、ともに拝せん。
  
5. レシタティブ (バス) Recit-Bass  
主エホバのたまう、やがてまた、うちふるいて、天と地と国々を動かさん、やがてわれ、国々、もろ民、なべてふるいて、世の願いしものは来たらん、民の求めし主、誓いの使いは、その宮にくだりて来たらんと。
  
6. ア リ ア (バス) Air-Bass  
主来ます日、みまえにいていて、誰かよく立ちえんや、黄金をば、ふき涌くる日のごとき、主の前に、誰かよく立ちえん。
  
7. レシタティブ (アルト) Recit-Alto  
視よ、乙女孕みて子を生まん、その御名はエマヌエルと名付け呼ばれん。
  
8. ア リ ア (アルト) Air-Alto  
合 唱 Chorus  
喜びのおとずれを世に告ぐる者よ、高き山にのぼれや。なが声をあげ叫けべ。おそるなユダの町に告げよ、町々に告げ知らせよ、視よ、なが神来ませりと、みおとずれを告ぐるものよ、いざ立てや、主のみいつ、みさかえ、主の光は、ながうえに高く照りいでぬ。
  
9. ア リ ア (バス) Air-Bass  
くらきを歩める民は、大いなる光を見ん。死のかげの地に住める者の上にぞ、光照らせり。
  
10. 合 唱 Chorus  
世に御子をばたまう、聖子はあれましぬ。世の祭事はそのかたにあり、その名は呼ばれん、「不思議、代議者、大能の神、永遠の父、平和の君」

11. 田園交響曲（シシリア牧歌）Pastoral Symphony

12. レシタティブ（ソプラノ）Recit-Soprano

この地に野宿して、夜、羊の群を見守る、牧者等のありしが、視よ、主の使い  
彼等に現われ、主の御光、まわりを照らしたれば、みな、いたくおそる。

13. レシタティブ（ソプラノ）Recit-Soprano

御使い、語り云う、「おそるな、おおいなる喜びのおとずれをば、われは民に伝  
う、ダビデの町に、今日こよい、世の救主なるキリスト、生まれたまいぬ」

14. レシタティブ（ソプラノ）Recit-Soprano

忽ち千万の天使等、現れいでて、主をばほめ歌う。

15. 合唱 Chorus

栄光は、高き主にあれや、地に平和、めぐみ、人にあれや。

~~~~~ 休 憩 ~~~~~  
Intermission

16. レシタティブ（アルト）Recit-Alto

そのとき、目しいの目は開らけ、耳しいの耳は聴くことを得ん、足なえは鹿の  
ごとくとびはしり、小牛の舌は歌を歌わん。

17. アリ ア（アルト・ソプラノ）Air-Alto and Soprano

牧者、主はその群をば、めぐみの手もて、やすらに守り、導きたまう、主は小  
羊をたずさえて、いつくしみ深き、その御手に、いとやわらかに、養いたまう。  
疲れしものよ、主に来れや、重荷を去りて、やすけいきいを身にぞたまわん。  
主のくびきはいとやすく、心は低く、柔和なれば、静けく、潔いきいをえん。

18. 合唱 Chorus

視よ、神の小羊、世の罪を除かん。世のつみをのぞかん。

19. アリ ア（アルト）Air-Alto

主こそ、げに世の人にあなどられて、捨てられたまいぬ、悩みと、悲しみ、な  
べて主は知りたまえり。むち打つ者に、そのほほをさけず打たせ、つばきにて身  
をそしり、笑う身を笑う者に、顔を向け、おおいたまわざりき。

20. 合唱 Chorus

げにも世の悩み、かなしみをば、主はとりて、身に負いつつ、世の罪、とが、  
不義のためにぞおのが血を流して、みずから、世のため、こらしめをうけたまう。

21. 合 唱 Chorus  
うたれし主のきずに、われら癒さる。
22. 合 唱 Chorus  
ひつじの如く迷いて、われらおのおの己が道をゆけり。
23. 合 唱 Chorus  
かれ主エホバをより頼めり、主喜べばかれを助けん。
24. ア リ ア (ソプラノ) Air-Soprano  
平和と恵みの、よきおとずれをつたえるものは、世にうるわしく、尊きかな。
25. レシタティブ (テノール) Recit-Tenor  
天に座するもの、かれらは、嘲り笑いたまわん。
26. ア リ ア (テノール) Air-Tenor  
主エホバは、くろがねのつえもて、彼等を打ちて、すえつくりのうつわのごとく、打ちて、打ちくだかん。
27. 合 唱 Chorus  
ハレルヤ、ハレルヤ、全能の主、すべたまえり、世の国々は、主とキリストの国となれり、主は永遠にすべたまわん、主の主、諸王の王、ハレルヤ、ハレルヤ、
28. ア リ ア (ソプラノ) Air-Soprano  
主は永遠に生きたまう。人の世に、ふたたび、来たりたまわん、主はふたたび、下りたまいて、われらとともにぞ住みたまわん、身は朽ち果つれど、わがたまは、永遠に、御神をばみまつらん、主イエスは、死に勝ちて甦えりて、眠りしものの初穂となりたまう。
29. 合 唱 Chorus  
人の世に死来たりぬ、世の死せるものに復活も来たり。アダムによりて、人みな死せど、人みなキリストによりて活くべし、人みな活くべし。
30. 合 唱 Chorus  
世の罪を負いて、ほうられたるこ羊よ、力と富と知恵と恵みと栄光と讃美とあれや。御座に坐する尊きこ羊にぞ御力と栄あれかし、永遠のご栄光、御力と御栄えあれかし、ときわに、かきわにあれや。  
「アーメン」 Amen Chorus



# 出 演 者

## 金城学院管弦楽団

### I Violin

加 藤 奈 緒 (中)  
水 野 滋 子 (中)  
大 岩 麻 実 (高)  
中 根 馨 子 (高)  
戸 塚 絹 代 (高)  
竹 内 自 子 (大)  
虎 沢 満 子 (大)  
近 藤 淳 子 (大)  
近 藤 十糸子 (大)  
内 藤 孝 子 (卒)  
蒲 美穂子 (卒)  
古 屋 恵 美 (卒)

### II Violin

佐 藤 桂 子 (中)  
水 野 希光子 (中)  
森 井 真紀子 (高)  
大 島 晴 子 (高)  
伊 藤 玲 子 (高)  
高 橋 庸 子 (高)  
前 田 初 美 (高)  
百 束 真知子 (高)  
中 村 睦 (大)  
大 池 教 子 (大)

### III Violin

可 知 宏 子 (中)  
竹 内 清 子 (中)

### Viola

岡 田 恵美子 (高)  
加 藤 清 子 (高)  
生 田 昌 代 (高)  
内 村 日 子 (高)  
谷 口 映 子 (高)  
高 橋 路 子 (大)  
杉 山 博 子 (大)  
村 松 由美子 (大)  
田 中 直 子 (大)

### Cello

青 山 恭 子 (中)  
大 野 由 紀 (中)  
若 山 昌 子 (中)  
佐 藤 逸 代 (高)  
森 田 晴 代 (高)  
安 井 久仁子 (高)  
三 浦 洋 子 (大)  
山 田 美津子 (大)  
一 色 ひとみ (大)  
杉 浦 生 子 (卒)  
天 野 武 子 (卒)

### Bass

後 藤 敏 代 (中)  
松 原 敬 子 (高)  
藤 井 路 代 (高)  
山 村 ゆき江 (高)  
松 川 登志恵 (大)

### Oboe

横 井 典 子 (中)  
加 藤 正 美 (高)  
高 浜 淑 子 (大)

### Flute

可 知 淳 子 (高)  
加 藤 千咲子 (高)  
木 村 咲 代 (高)  
寺 島 由美子 (高)  
広 田 百合子 (大)

### Clarinet

吉 川 薫 (高)  
森 庸 子 (高)  
今 村 由紀子 (高)  
蛇 原 昌 代 (高)  
子 安 みどり (大)  
(Bass.Cla) 藤 原 靖 子 (高)

### Basson

長 瀬 洋 子 (高)  
藤 田 房 子 (大)

### Horn

大 木 直 子 (中)  
鬼 頭 由美子 (高)  
井 上 真理子 (高)  
中 山 善 子 (大)

### Trombet

後 藤 香代子 (高)  
佐 藤 慶 子 (高)

### Trombone

改 発 理英子 (中)  
加 藤 みちる (高)  
黒 野 靖 子 (高)

### Timpani

木 下 久 代 (高)

## 合 唱

### 金 城 学 院

#### ソ プ ラ ノ

##### 中 学 校

|         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 青 木 幸 代 | 池 下 恵 理 | 大曾根 桂 子 | 小 田 祐紀代 | 加 藤 潮 音 |
| 加 藤 万紀子 | 河 井 麗 子 | 北 島 篤 子 | 小 出 幸 子 | 小 島 園 恵 |
| 近 藤 智 子 | 佐 藤 喜住子 | 品 川 久 美 | 鈴 木 千 春 | 鈴 木 恵   |
| 中 島 博 子 | 林 いずみ   | 平 岩 久美子 | 広 瀬 素 子 | 山 中 緑   |
| 水 谷 薫   |         |         |         |         |

##### 高 等 学 校

|         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 稲 葉 千津子 | 長谷川 公 子 | 浅 野 容 子 | 伊 藤 喜直子 | 岩 間 百合子 |
| 大 島 尚 子 | 鈴 木 智砂子 | 西 村 佳 子 | 山 本 能婦子 | 大 野 綾   |
| 各 務 まゆみ | 神 谷 貴 子 | 柴 田 智恵子 | 清 水 淳 子 | 寺 島 裕 子 |
| 甕 祥 代   | 矢 守 好 江 |         |         |         |

#### メゾソプラノ

##### 中 学 校

|         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 浅 居 久美子 | 出 原 康 子 | 今飯田 敦 子 | 今 村 元 子 | 太 田 しおり |
| 大 野 真 未 | 小笠原 秀 代 | 小田原 仁 美 | 川 浦 郁 子 | 栗 本 裕 子 |
| 酒 井 由美子 | 丹 羽 紫緒美 | 平 岩 妙 子 | 平 野 和 江 | 森 由 季   |
| 山 城 英 子 | 吉 田 一 恵 |         |         |         |

##### 高 等 学 校

|         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 口 石 祐美代 | 藤 田 妃 文 | 藤 原 俊 美 | 牧 七 雅 子 | 飯 田 久 乃 |
| 石 田 容 子 | 岩 田 美津子 | 大河内 俊 美 | 大 沢 有 子 | 富 田 直 子 |
| 森 島 昌 子 | 谷 貝 ゆかり | 渡 辺 恵 子 | 渡 辺 ま ち | 加 藤 宏 子 |
| 藤 井 良 子 | 吉 村 ひとみ |         |         |         |

#### ア ル ト

##### 中 学 校

|         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 安 藤 みどり | 家 崎 裕美子 | 市 村 恵美子 | 伊 藤 夏 子 | 江 崎 洋 子 |
| 太 田 久美子 | 緒 形 信 子 | 風 岡 真奈美 | 久 野 美 子 | 新 帯 広 子 |
| 杉 山 真砂子 | 本 間 祐 子 | 山 田 みどり | 山 内 富紀子 |         |



## ア ル ト

### 高等学校

|       |        |        |        |       |
|-------|--------|--------|--------|-------|
| 飯田 信子 | 太田 里美  | 大竹 亜美子 | 黒野 宮子  | 鈴木 裕子 |
| 林 千賀子 | 松林 美知子 | 百々 真弓  | 山村 ゆき江 | 浅居 京子 |
| 小沢 弥生 | 小森 節子  | 服部 智子  | 日比野 延子 | 坂野 郁子 |
| 水口 寿子 | 横井 幸子  | 渡辺 昭子  | 大津 由紀子 |       |

## 名古屋学院

## テ ナ ー

### 高等学校

|       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 高田 純一 | 長柄 克彦 | 竹内 正幸 | 大野 章義 | 加藤 雅己 |
| 玉井 信之 | 飯田 幸治 | 若杉 一清 | 夏目 優司 | 岡田 直人 |
| 岩田 雅之 | 深川 準士 | 加藤 芳樹 | 加藤 巧  | 山田 正隆 |
| 柴田 育彦 | 桃田 純孝 |       |       |       |

### 大学

|      |       |      |        |      |
|------|-------|------|--------|------|
| 渡辺 博 | 酒井 直樹 | 柳 雅人 | 加藤 三津緒 | 大倉 務 |
| 大倉 猛 | 石原 利広 | 林 孝  | 渡辺 利雄  |      |

## ベ ー ス

### 高等学校

|       |       |       |        |       |
|-------|-------|-------|--------|-------|
| 水野 峰寿 | 水野 千尋 | 柿崎 慎一 | 大河内 克己 | 水野 隆夫 |
| 佐藤 安信 | 山谷 直毅 | 佐藤 公  | 原田 充   | 前島 秀俊 |
| 鈴木 啓之 | 松本 康生 | 武田 知己 |        |       |

### 大学

|       |      |       |       |       |
|-------|------|-------|-------|-------|
| 今尾 正勝 | 上原 清 | 加藤 和利 | 伊藤 忠雄 | 前田 雅一 |
| 中村 勝利 |      |       |       |       |

## 指揮者



### M・I・ケリー

1924年ペンシルバニア州に生れる。

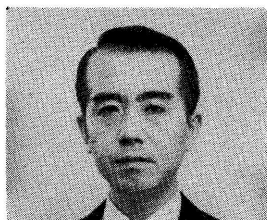
1949年コロンビア大学卒業。その間ジュリアード音楽大学及びシンシナティ音楽大学で音楽教育学を学ぶ。

フレンチホルンの名手。

1957年音楽宣教師として来日、2年間の日本語学校を経て1959年9月金城学院に赴任。その後2回それぞれ一ヶ年づつ休暇のため帰米、一昨年9月第2回目の休暇を終えて着任された。音楽を通じて伝導に専念される。

## 独唱者

テノール

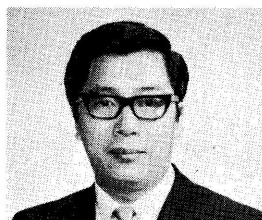


### 磯野 清

昭和37年大阪音楽大学声楽科卒、クリスチャン。

在学中よりNHK大阪放送合唱団にて演奏活動、昭和41年大阪音楽大学に招かれ、大放唱を退団、母校にて声楽、合唱を指導、声楽を横井輝男、浦山弘三、木下保の諸氏に師事。今回は金城学院メサイア第五回目の出演。

バス



### 横田 浩和

東京芸術大学声楽科卒業

オペラ「魔笛」「こうもり」「フィガロの結婚」他数多くのソリストとして出演し、オラトリオのソリストとしても「マタイ受難曲」のイエスをはじめ、モーツァルトの「レクイエム」「戴冠ミサ」ベートーベンの「ハ調ミサ」「第九」など出演。昨年第二回「リサイタル」を開催した。

二期会会員、大阪音楽大学講師。

今回は金城学院メサイア第二回目の出演。

ソプラノ



### 後藤 紀子

昭和42年金城学院高等学校卒業。

昭和46年国立音楽大学声楽科卒業。

現在名古屋音楽学校専任講師

アルト



### 外野 淑子

昭和42年金城学院高等学校卒業。

昭和46年愛知県立芸術大学声楽科卒業。

現在大阪二期会会員

## 指導者

合唱



### 佐藤 初枝

金城学院教諭

管弦楽



### 校条 武雄

金城学院教諭

きょうダビデの町に、

あなたがたのために

救主がお生れになった。

このかたこそ主なるキリストである。

讃 美 歌 109

1 きよしこのよる 星はひかり、  
すくいのみ子は まぶねの中に  
ねむりたもう いとやすく。

2 きよしこのよる み告げうけし  
まきびとたちは み子の御前に  
ぬかずきぬ、 かしこみて。

3 きよしこのよる み子の笑みに  
めぐみのみ代の あしたのひかり  
かがやけり、 ほがらかに。